

### 39. 当院における末梢血管障害、虚血性潰瘍に対する高圧酸素療法の治療経験

高尾勝浩<sup>1)</sup> 川島真人<sup>1)</sup>

田村裕昭<sup>1)</sup> 中山英明<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup>川島整形外科病院  
(<sup>2)</sup>産業医科大学高気圧治療部)

目的：末梢血管障害や虚血性潰瘍には、さまざまな薬物療法や手術療法が行われているが、最近では自然治癒力を促進し、薬物療法の効果を増強する目的にて高圧酸素療法（OHP）を併用して、良好な結果を得たとの報告も少なくない。当院でも、1981年6月以来、現在まで末梢血管障害や虚血性潰瘍に対し、OHPを施行したのでその治療効果について報告する。

方法：2.8 ATA～2.2 ATA 下にて純酸素を20～60分、30回を1クールとし、最短11回～最長259回。全症例は、23例（男19例、女4例）、年齢は、19～77歳（平均53.8歳）。疾患別では、閉塞性血栓血管炎9例（男7例、女2例）、年齢は47～77歳（平均59.1歳）、閉塞性動脈硬化症4例（男4例）、年齢は、50～75歳（平均58.3歳）、静脈炎（血栓）3例（男3例）、年齢は、38～69歳（平均58.0歳）、血行障害以外の難治性潰瘍4例（男3例、女1例）、年齢は、19～55歳（平均40.3歳）、植皮3例（男2例、女1例）、年齢は、38～53歳（平均46.0歳）であった。

結果：全例に良好な自覚症状の改善をみた。特に静脈炎（血栓）に対しては、短期間で明らかな改善があり、血行障害以外の難治性潰瘍、植皮では、創部治癒期間の短縮、消炎があると思われた。症例数が少なく、詳細な効果判定は難しいが、以上の結果をもって、若干の考察を加えて報告する。

### 40. ガス壊疽に対する高圧酸素療法の経験

広津 明<sup>1)2)</sup> 篠崎正博<sup>1)</sup> 池田浩三<sup>1)2)</sup>

川口新一郎<sup>1)</sup> 嬉野二郎<sup>1)</sup> 加来信雄<sup>1)</sup>

無敵剛介<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup>久留米大学救命救急センター  
(<sup>2)</sup> 同 第一外科)

目的：ガス壊疽に対する高圧酸素療法（以下OHP）は、外科的治療および化学療法と併せて現在不可欠なものとされている。今回、当センター開設以来3年間で9例のガス壊疽を経験しOHPの有効性について検討し報告する。

対象および方法：9例の内訳は男性7人女性2人で、年齢は29歳から76歳であった。また外傷例が6例で残り3例は会陰部より発生した所謂 Fournier's gangrene であった。尚、9症例中4例(44.4%)に糖尿病が合併していた。これらの症例に対し、OHP、外科的治療および化学療法などの集中治療により8例を救命し良好な結果を得た。OHPは、3 ATA、1時間、8～10回を1クールとし全身状態が悪く施行し得ずに死亡した1例を除き8例に3～14回、平均9回施行した。尚、OHPは皮下及び筋肉内にガス像を認めた場合、細菌学的検査結果を待たずに開始した。また外科的治療としては、局所の開放、debridement および罹患四肢の切断が主なものであった。さらに強力な化学療法として、AB-PC、CZX、LCMなどを中心に投与した。一方、検出菌としては、嫌気性菌は9例中5例で中でも Clostridium 属が検出されたのは2例(22%)に過ぎず Bacteroides 属が4例(44%)に検出された。また、好気性菌では Klebsiella、Acinetobacter Enterobacter などのグラム陰性桿菌が多数検出された。

結果：(1)ガス壊疽症例9例を経験し8例にOHPを施行し8例とも救命し得た。(2)OHPは、3 ATA、1時間、8～10回を1クールで十分な効果を得た。(3)好気性菌との混合感染に対してもOHPは非常に有効であった。

以上よりOHPはガス壊疽に対し外科的療法および化学療法と併用されるべき不可欠な治療法である。